

事 業 委 員 会

平成 2 5 年 9 月 1 7 日 (火)

## 事業委員会

日 時 平成25年9月17日(火) 午後1時00分開会—午後1時48分閉会

場 所 役場3階 第2委員会室

出席委員 竹内委員長、小川副委員長、鍛冶、奥野、道工、中原、辻下  
田島議長、

欠席委員 なし

傍聴議員 竹原

出席理事者 田代町長、中口副町長、笠間教育長、白井総務部長兼財政改革部長、  
南まちづくり戦略室長、末原都市整備部長、岡本水道事業理事、  
村上総務部理事兼財政改革部理事兼まちづくり戦略室理事  
多賀井都市整備部土木下水道課長、河合都市整備部副理事兼産業振興課長、  
鵜久森都市整備部水道課長、西まちづくり戦略室理事兼企業誘致・総計担当、  
四至本財政改革部理事兼行革推進課長、木下都市整備部理事兼PFI総括、

案 件

(1) 付託案件について

(午後1時00分 開会)

竹内委員長 忙しいところすみません。ただいまより臨時事業委員会を開会したいと思います。

本日、事業委員の中原委員から、去る10日に開催いたしました事業委員会におきまして質疑した答弁に疑義が生じたことにより、私、委員長として委員会を開く必要があると判断いたしましたので、臨時事業委員会を開催いたします。

案件につきましては、事業委員会資料の27ページの海釣り公園納付金のところで、中原委員から入場者数の推移及び売店の売り上げが、1人当たり630円から1,000円と提示があった件についての答弁ということですね。

それについて、中原委員。

中原委員 このようにわざわざ臨時で会議を開いていただきまして、委員長には特段のご配慮をいただいたと感謝したいと思います。委員の皆さんにも、私、大変申しわけないという気持ちでお集まりいただいておりますので、ただ、この原因はどこにあるのかということについては理事者によくご自覚いただきたいということを初めに申し上げておきたいと思います。

委員長のほうからお話がありました点について、私は事実と異なる答弁があったということで、きょうは臨時の委員会を再度開いていただいているところなんですけど、事実確認をしっかりとする必要がありますので、まず、皆さんのところに配付いただいている「海釣り公園とっとパークの経営状況について」という1枚物の資料がありますが、これにつきまして、まず申し上げておきたいと思います。

これは委員会の場で私が請求したものでありまして、後日配られたものですので皆さんのお手元には届いていないと聞いたので、きょうは改めて用意をしていただきました。このような資料が出てきたのは、経営状況が率直にいうとうまくいっていないのではないのかという私の懸念に基づくものでありまして、利用者数等がどのように推移しているのか数字でもって確認をしたいということに対して配付されたものであります。

それから、私が誤りであると考えている答弁の内容について確認をしたいと思っておりますけれども、その内容について局長からお答えいただきたいんですが、会議録にかかわるものですので。私はこの海釣り公園の新たな施設の建設のとき、物販収入を1人630円ぐらい、そのときはあったんですけど、それを1,000円ぐらいまで持っていきたいと、それを目標にしていると昨年2月の臨時会のときにお答えをいただいていたので、その目標は達成されているのか、クリアされているのかとお聞きしたところでありまして、それに対して達成しているというお答えでありましたが、私はその後いただいた資料でそ

うではないのではないかという疑念を持ちまして、改めて確認するところであります。

私の質問と答弁者の回答を局長からお願いできますでしょうか。

大山事務局長 9月10日に開催されました事業委員会におきましての反訳がちょうど返ってきたところでございます。それを必要なところだけ朗読させていただきます。

中原委員さんが言われたところですが、海釣り公園についてはドーム型の休憩、また物販の施設を建設したという経緯がありましたので、そのことについてもお聞きしておきたいと思えます。1人当たりの購入単価というのか、以前この施設の建設する議論をいたしましたのは昨年2月の臨時会だったと思うのですが、その説明のときには、その時点では1人当たり630円ぐらいの客単価ということをおっしゃっていたかなと思えます。それをこの施設を建設することによって1人当たりの単価を1,000円ぐらいまで伸ばしたいと思っているとおっしゃっていたと思うんです。その目標が達成されているかどうかお尋ねしたいこと等と続きます。そこで河合副理事から、この6月の事業委員会でも報告しましたが、物品販売収入について、23年度から24年度については約1,500万円ふえており、1人当たり1,000円の部分は超えておりますと答弁されております。

竹内委員長 中原委員。

中原委員 局長、事実の確認ありがとうございます。

この中身について、私は事実と異なると資料に基づいて考えておりますけれども、答弁の訂正がありましたらお聞きしたいと思います。

竹内委員長 河合副理事。

河合都市整備部副理事兼産業振興課長 9月10日の事業委員会において、中原委員の質問の中でとっとパークの24年度の1人当たりの物品販売単価は、昨年の2月の臨時会において1人当たり630円だったのが1,000円まで伸ばしたいと言っていたのですがどうかの質問があり、1人当たり1,000円は超えていますと返答しましたが、実際計算したところ862円でありました。訂正させていただきます。申しわけありませんでした。

竹内委員長 中原委員。

中原委員 大変残念なことでありますけれども、新しい施設の建設によって、計画どおりの成果は見られなかったということでありました。それで、そうなりますと、私はやはり新たな質問というか疑問が浮かんでくるわけなんです。どうして計画どおりに進んでいないのかということなんです。悪天候ということは10日に行われました事業委員会でも私は認めた

ところでありまして、ほかの予算執行状況を見ましても災害復旧費等でかさんでいることからわかりますとおり、昨年度においては大きな災害によって被害があったということは認めるところであります。ただ、悪天候を理由にということにしているという問題はなないと私は思っているんです。悪天候で集客が思わしくないと判断された時点で、何らかの町としての努力をなさったのかどうか。やはり目標を持って進めておられる事業ですので、悪天候ではあっても最大限の努力をして集客を図るということは、町にとって大切なことかなと思いますので、特段の努力を払われたのかどうかお聞きしたいと思うんです。

それで、このことは、言い間違いは河合副理事の口から語られたことではありますが、この言い間違いにとどまらない、私はこのことについては政治的な責任があると考えておりますので、今お聞きしたことについて、末原事業部長と中口副町長にお聞きしたいと思います。

竹内委員長 末原部長。

末原都市整備部長 まず、ちょっと説明の中で誤解があったかもしれませんが、実は客単価は630円であるという過去の現実から、1,000円を目標に進めていきたいという答弁をさせていただきました。我々の目標というのは、約3年間で施設の改善とかレストランの改善とかして思っていましたので、目標というと3年ぐらいで1,000円、1,000円といいますのは各地区の平均単価のようなものが約1,000円と出ていますので、それを目標としたいと言っていました。ですので、今回中原委員ご指摘の今年度24年度分が1,000円になっていないから全然目標に達してないという我々の考えとは少し違っていて、3年ぐらいで1,000円に持っていききたいということですので、その辺は少しご理解を願いたいと思います。

それとあと、悪天候のために客足が当然伸びておりません。そのことについて、町として悪天候にも左右されない施設としてドーム建設を進めたわけで、夏の暑い時期でもそこにお客さんが来る、冬でも少し荒れても物販のお客さんが来てほしいという願いのもとにつくったわけなんですけど、現実的にはこのとっとパーク自体は道の駅に併設しておりますが、やはり釣り客が主体となっておりますので、釣り客は釣果によって、インターネットのほうを調べて、なかなかそれで天候とか寒くても釣れるときは来るというような事例もございます。そのあたりでご理解願いたいと思います。

竹内委員長 副町長。

中口副町長 中原委員からのご指名でございますので、私のほうから答弁させていただきます。

基本的には今事業部長が言ったとつとパークの運営については、町行政も関心を持って指導・協議しているところでございます。入り込み客数の減については当然天候もあり、その辺は中原委員も理解していただいているところでございますが、かといって入り込み客数が減ったからといって、そしたら内容的にどうなのかっていうことでございますが、物品販売収入においても、お手元の表にありますように23年度から24年度にかけて1,500万円の増が見込まれております。そういうことで、施設の指定管理者も努力しているということでございますので、今後岬町としても、先ほど事業部長が言った内容で指導してまいりたいと考えております。

竹内委員長 中原委員。

中原委員 末原部長からお答えをいただきましたけれども、誤解のないようにと言われましたが、私は先だつての事業委員会での答えを踏まえて、また、昨年2月の臨時会ですが、そのときの答弁を踏まえて誤解なく理解をしているつもりであります。昨年の6月議会のときでしたか、2月の臨時会より、一昨年になるのかな、5月でしたかね、ちょっとごめんなさい、時期は定かではありませんけれども、そのときは3カ年をかけて1,000円に持っていきたいと、平均ということですが、そういうような説明をされていたようですが、それならばきちんとその内容をご答弁いただくべきであつたであろうし、同じ場に末原部長もおられたわけですから、聞いていて事実と異なるということであれば、そのときに補足説明をされるべきではなかったのかということをもっと申し上げておきたいと思っております。

それから、末原部長から悪天候でもお客さんが入るようにということで施設をつくつたということでありまして、それならばなぜ目標が達成されていないのか、そこがさらに問われるわけです。理由はいろいろとお話しされていまして、それについては全く私も認めないわけではないんですが、目標どおり、この事業が進んでいないということに対する責任はどのようにお感じになっておられるのか、そのことについて、私は率直に言って先ほどの答弁では疑問を感じるころでありましたので、部長からお答えをいただきたいと思っております。

竹内委員長 末原部長。

末原都市整備部長 まず1点おわびしなきゃならないのは、河合のほうの発言があつたときに、そういう計算をして根拠を持って答弁していると私も勘違いをしておりました、私自身の数値の確認ができておりませんでした。まことに申しわけございません。

それと、悪天候という意味の考え方なんですけれども、夏場は、管理者に言わせますと非常に暑くなると、炎天下にさらされると。その中で食事をするのも小さなテントを持ってきている方もいるようだがしんどい。冬場も寒さをしのぐためにテントを持ってきている。その中でどうしても食事とか温かいものが欲しい。そうになると、またお客さんもふえるよと。その野ざらしの状態を改善したいという要望もございました。町もドームを建設することによってそういうお客様のニーズを満たすことによって客が伸びてくるだろうと、そういう見込みを立てておりました。

残念ながら、我らがもくろみとは違いまして、やはり魚が釣れるということが非常に重要な要素になっているみたいです。ご承知のように魚というのは大阪湾の中でも回遊しておりまして、場所によたら魚がたくさんあったというところもあるみたいです。しかしながら、今回の小島とつとパークの周辺では非常に魚が減った。また水温の関係とかいろんなもろもろの要素もございましたので、そのあたりは天候のため、いたし方ないのではないかと考えております。

施設管理者はいろいろ稚魚の放流とか投石をしたりとか、そういう改善を行っているのですが、やはり魚の回遊についてはいかんともしがたいところもございます。しかし指定管理者のできる範囲の中で、その辺のお金を用いて改善していくというような、そういう方向で指示していきたいと考えております。

竹内委員長 田代町長。

田代町長 担当からの答弁は、これはもうそのとおりであります。少し具体的に申し上げておかないと誤解を招くと思います。実はこの施設、ドームを建設に至っては、非常に釣り客人口が減ってきたということで、手前の資料にありますとおり平成20年、19年は途中からですけれども20年から23年度の間、かなり釣り人口が、特に22年度は5万6,230人と減っている。6万人から5万人に下がっているわけなんです。

この要因は何かということは、実は釣りに来られた方が駐車場がないということで、そして休憩施設がないということで、せっかく来たのに帰る。それでかなりの集客人口が減ってきた、利用人口が減ってきたということを指定管理者から、データを用いて説明がありました。その中で、どうしたら、この今の来たお客さんをうまく釣り客として迎え入れられるかということの話をしましたところ、やはり休憩施設が欲しいとのこと。

それがあつたら一時そこで休憩してもらって、次のお客さんが帰るまでの間対応ができる。もちろん物販もそこでやりたいという意向があつて、議会の皆さん方のご理解を得て、

ドーム建設の補助金として3,000万円、基金から繰り出した経過がございます。

その中で最終的に、24年の決算はどうなるのかを申し上げますと、当時21年度では350万円のお金がマイナスであった。それでこのときに町が利用税の10%を、町もお互いに応分の負担をして、本来は500万円、町に入れてもらう予定だったんですが、かなり減額をして町に納入していただいた経過がございます。

24年度の決算では、既に当時の22、23年度から見ますと52万円で23年度は39万円という形の数字でありますけれども、24年度は100万円近い数字が上がってきたということで、利益は100万円という形ですけれども、利用者数にいきますと23年度、22年度ほとんど横ばいの状況できている。こうなるとやはりドームの建設の効果は上がったと私は理解しております。

物品販売の収入については、今、副町長から説明があったように21年から4,600万円も上がっている。かなり数字的にはいいものが出てきていると思っております。

ただ、指定管理者が、ことしは猛暑で非常に暑かったということもあって利用者が減ったということもありますけれども、それ以前に魚がほとんど食わない状況が続いた。

これは4漁業の組合員の話聞いても全く魚がとれないという状況がこの1年間続いたのかなと思っております。ですから回遊魚ですから、釣り堀の中に魚を入れて釣るんじゃなくて魚がずっと回遊してくるのを釣るわけですから、釣れる年と釣れない年とかいろいろあるかのように聞いています。

そういうときに小島の漁業組合長として今の指定管理者がおっしゃるのは、やはり放流をどんどんやって、魚が釣り公園のほうへ回遊してくるような状況をつくっていることをおっしゃっていますので、かなりの努力はしておられます。それから魚が寄りつくために、栈橋の下にいろんな貝殻が余りつくると魚がやっぱり寄りつかないというような話も聞いて、そこへ潜って貝殻をとったり、いろいろな方策をしておられるようですから、指定管理者としても何もしていないことはありません。

私どもも一生懸命なその状況もつぶさに聞いておりますので、目標数字にはまだまだ達成していないかもわかりませんが、私どもとすれば今の客がどんどん減っていくのを防いでいこうとすることです。

それにはドームをつくって休憩、または物品を販売していく、そういうところで利益の幅を少しでも高くしていこうということの狙いですので、そういった意味では基金は700万円という数字はきちっと入れていただいています。

ただ一般利用税が500万円という数字が少ししんどい数字かなというのはありますけれども、これはこれからいろんな工夫をしていただいて、我々も知恵をかりながら今後のこの管理運営を見ていきたいという思いがあります。

ことは非常に異常な気象ということで、魚が少ないという状況であるということはご理解をしていただきたい。

それから最後になりましたけれども、先ほど中原委員のおっしゃっている質問に対して曖昧な答えをしたことについては、これは私が本当におわびを申し上げたいと思っております。今後こういうことのないようにしっかりと資料に基づいた内容をご説明できるようにしたいと思っておりますので、今回の私どもの答弁不足が委員の皆さん方にご迷惑をかけたことを改めておわび申し上げたいと思います。

竹内委員長 中原委員。

中原委員 町長の話がいろいろ出てきて、その前にお話しいただいた末原部長の話がどっかに行ってしまったんですけど。ちょっといろいろ聞いていますと、何か説明がまたちぐはぐに感じるところが出てくるわけなんですよ。といいますのは、町長の今の説明で夏の猛暑が一つの理由であるようになっていうことでしたけど、秋口ぐらいまでは順調に客が伸びていたと聞いていたので、何かちょっとちぐはぐな感じがしたり、釣り客が減っていくのを防いでいくんだとおっしゃいますけれど、それは当初の目標から目標水準を下げる考え方なわけですよ。私はそう思います。

伸ばすということの目標でもって、基金からお金を出してドーム型の休憩施設を建設しましたと。客を伸ばす、売り上げを伸ばすということが目標だったわけですよ。それは釣り客人口がどうも減っているようだと、その客を減らないように減っていくのを防いでいく、防いでいくという考え方は維持するという考え方に近いわけですよ。その辺で私は、聞いていたらいろいろちぐはぐな感じはするんですけど、ちょっとこの件は一個一個やっていくと恐らく物すごい時間もかかってくるので、それはもう結構です。また機会があるごとに私も聞かせていただきたいと思っておりますけれども。

それから同時に申し上げるのは、私は事業者としては努力をされているということは認めてるんですよ。いろいろとお聞かせをいただいて、また資料もこれまで幾つも出していただいています、担当の方からご苦労までいただいて。その中で稚魚の放流について、これまでの倍にふやしたような年度もありましたし、看板についても工夫もされて迅速に手だてをとられたり、いろんな努力されてるのを私は感じています。ただ、そのことについて

て、悪天候が原因ということでありましたけれども、町としてもっと周知に努力ができたんじゃないかとか、私は事業者の内部的な運営については詳しく存じ上げませんので、そこまでは申し上げられませんけれども、町としての努力がどうだったのか、目標が達成できていないことについて町としてどのように感じているのかについてということに懸念を持ったということなんです。

町長が最後に今、何とか締めくくりみたいなの、トップとして一言、言葉をお聞きしたので、なかなかそれ以上私もちょっと物が言いにくくなるんですけども、ただ、私はこうなってきましたと、当初の目標がどうだったんかっていうことについて、そこまでさかのぼってやっぱり疑念を感じざるを得ないんです。随分前の話ですけど、建設するときの計画では年間2万人の釣り客があれば採算がとれると、絶対に失敗しないんだということをお聞きしていました。ただ、そのことを聞いた上でも私は別の点で、進め方の問題で賛成しかねるところがありましたので、この施設そのものの建設には賛成しなかった立場ではあります。ただ理事者として当初の説明、そのときは今の町長は町長ではなかったわけですけども、町としての考え方としては、建設当初、年間2万人の釣り客があればペイできると堂々とおっしゃっていたわけで、その言葉に基づいて私以外の議員さんが賛同されたと思うんです。その目標がどうだったのかと、その計画がそもそも甘かったのかというところまで私は疑念を感じざるを得ないです。かなり昔の話になりますけれども、そのことについて町としてどう考えているのか、ちょっと立場がそのときと、特に町長は異なりますけれども、そのことについても私は責任があると思うんです。当時の計画に甘さがあったということじゃないのかと私は思うんですけど、私のこの疑念、このことについて町として考えているところがあればお答えいただきたいと思います。

竹内委員長 末原部長。

末原都市整備部長 ちょっと過去の経緯にさかのぼる話になるんですけども、こちらの資料では24年の1月25日の事業委員会協議会の資料の中に、当時19年度から23年度の計画についてですが、来園者数が19年度については半年ですけども2万2,000人、20年度には6万1,000人、21年度は6万2,000人と、そういう形で伸びてきました。その後22年、23年度と減っているわけなんですけれども、そのあたりを踏まえて5カ年計画というのをそのときに提案させていただきました。その中で先ほどの物販の件がございます。物販の目標値なんですけども、当時の資料で24年度の目標額が4,300万円ということになっております。今回お出ししている物販販売収入では4,646

万3,000円ということで、その額は目標は達成しております。しかしながら利用料金ということが釣り客の収入に基づきますので、その計画では24年度は6,000万円の利用料金を見込んでおりましたが、今回5,482万7,000円ということで、目標としているところに達していないわけなんです。当時そのことについては、この6月14日の事業委員会協議会の中で、利用料金収入が伸びていない理由としては24年度の冬場につきましては非常に水温が低く、そのような形で釣果に影響があったということと、あと悪天候並びに土日、祝日に降雨があったと、そういう形で事業委員会のほうで資料をもって説明させていただきました。

それともう一点、ちょっと私の説明が不十分であったという説明の中に、3年間で釣り客の平均単価は630円から1,000円に伸ばしたいということをおっしゃいました。そのことにつきましても、当時の事業委員会協議会の24年1月25日には、4ページに表記されております3年間で達成を見込むということで、そのような計画に基づいて5カ年計画を出しておりますので、我々とすれば物品販売収入については大体予定どおりにいっているのではないかと。しかしながら利用料金、当然釣り客から見込まれる金については釣果によって減っているのではないかと、そのような見解になっております。そのことを踏まえて、19年からのお話につきましては、当時の答弁の中には収入が2万人入ればそれに見合う維持費もかかって黒字にはなる。それが6万人入ってながらもっと安定な収支計画ができていないというご指摘もございました。その件については指定管理者に確認しますと、やはり駐車場不足でお客さんが来ても道に並ぶ、ガードマンについてもたくさんつけなきゃならない、釣り客がふえれば当然その維持経費がかかってくる。またその中でも先ほど町長の答弁にありましたように、釣果を挙げるために投石、また稚魚の放流、ガードマンの数もふえたと、そのような回答をさせていただいたことがございます。したがって、ドーム建設に当たる投資については予定どおり進んでいるのではないかと考えております。

竹内委員長 中原委員。

中原委員 わざわざまた3年かけてっていう話をされましたけれども、私はそのことについて、さっき申し上げたと思うんですよ。会議録で確認すると、1人当たり1,000円の部分が超えておりますと断言をされているんですよ。ですので、さっきも言いましたけれど、3年かけてということがあったらその場できちんとおっしゃったらよかつたんじゃないんですかって申し上げましたでしょ。そのことをまたあえてここで蒸し返すという、

私の受けとめは蒸し返されたという気分ですけれども、そんなつもりはないかも知れませんが、私の考えは変わりません。やはり議会というのは一言一言、こちらもちろん気をつけて、特に数字については確認をして質疑もさせていただいているところでありますし、お答えをいただく際においてもそのようになさるべきだと、言論で私たちはやりとりする生き物でありますので、厳正にそこはご答弁についてもそのようにご注意いただきたいと改めて申し上げておきたいと思えます。

それから駐車場不足等について計画、私は建設当時のことを申し上げましたので、そのことについて途中で予測しないといえますか喜ばしいことであると思うんですが、駐車場が足りないぐらいに人が来てくれたということでありましたけれども、そういうことでいいますと、もっと小ぢんまりとお客さんが少なかったら維持できていたというか、経営状況については悪くなっていなかったということが言いたいんですか。違うと思えますけれども、私は今の説明を聞いたら、何か人がふえてお金がたくさん要って、その分もちろん収入もあるわけですから、何でふえていったらお金が足りないようになってくるのかなあという、ちょっと素朴な疑問があるんですけど。

竹内委員長 田代町長。

田代町長 きょうはうちの担当の説明が間違っているということでの委員会を開いておりますのに、中身、具体的な話が出ておりますので、ちょっとあえて答弁させていただくのですが、当初、これをスタートしたときの計画が甘かったのかどうかということについては、私はそのときには平成19年からスタートして半年間が途中からですから、20年度のデータでいきますと利用者数は六万一千何がしの数字が出ております。

その中で利益幅も760万円ほど出ております。このときは非常によかったと、21年度も同じように6万2,000人と6万代の利用者数があるのですが、残念ながらここで収支は350万円ほどの赤字が出てしまった。

これは何が原因なのかというときには、この人件費が相当オーバーして、大体1,000万円近く人件費が要ったということで、その原因は何かといえますと、先ほど担当部長が説明したように、やはり駐車場のスペースとかそういう安全を確保するための警備の関係の人件費が要ったとかいろんな原因はあるわけで、そういった中で赤字が出てしまったというのが1つはあります。

それで、この一番大事なことは、人数を少なくして利用しやすくして利益を上げるほうがいいのではないかと、これはもう当然そうだと思います。しかし棧橋をこれから10年間

の中で維持管理していくためにやっぱりメンテナンス料が要るわけですから、年間少なくとも500万円、基金を積んでそれで、10年後か15年後か数字はちょっと定かではないのですが、メンテナンスする経費を積み立てていこうという、初めからの計画がありますので、できればやっぱり利用者数は多いほどいいわけです。

しかし、多くなればなるほど経費も多くかかるわけですが、指定管理者はそういう意味ではかなりの人件費の削減とかいろんな経費の削減をやりながら頑張っていることは間違いありません。

当初はやみくもにやった問題ですから、それはやむを得ないとして、経営がまずかったのかどうか、また当初の計画は甘かったのかどうかということは、ちょっと前任者の関係もあって私も余り詳しくデータ的には理解できてない部分があるかと思うのですが、私が就任してからそのデータを見ますと、このままではやっぱりいかなあ。毎年基金を積み立てることは非常に難しいということから、集客力の多いドームをつくることによって利用者の10%、そして基金を500万円積んでいく。それを200万円上げて700万円にして、例えばメンテナンスをやる時期が来たときは同じ数字が出るように努力しないといけないということでもあります。

現在指定管理者のほうから一応要望が出ているのは、今の経営状態は気象状況とかいろんなことで左右されて非常に微妙に管理がしにくいところがありますので、今の釣り料金をもっと上げてほしい。今1,200円ですが1,500円にしてほしいという要望は出ております。ただ、私は心配するのは、1,200円だから今は来ているけれど、これを上げることによって客が減らないかという心配がありますので、もうしばらく時間を欲しいということで、担当と、どの時期にどうするかという問題は今データの的に検討している最中でもあります。

それから今後駐車場の問題がネックになっているわけで、今、民間の方の駐車場を借りています。これを今現在道の駅のある奥のほうに何とか一括で確保できないかという問題がありますけれども、これはやはりある一定の財源を投入する必要があるから、これはちょっと待ってほしいということで現在そのままの駐車場を利用させていただいているのですが、やはりそれもかなりのお金がかかっているということで、なかなか指定管理者の方はいろいろと苦慮しているようです。

今回の24年度の決算でいきますと利用者数はほぼ横ばいといいながらも利益はやっぱり100万円ほど上がってきているということで、人件費もかなり当初からずっと考え

ると少し上がっている。あといろんな形で努力なさっていると伺いますので、ドームを建設したことによってある一定の効果はあったので、これからも我々が計画している内容に近づけていきたいという努力を今後していきたいと思っております。

ですから、今までの計画がどうだったの、こうだったとかいう問題は、私はこの数字上ではそのときそのときの状況でしっかりと指定管理者の方はやってこられたと思っております。

竹内委員長 中原委員にお聞きします。

中原委員 もう質問はいいです。

竹内委員長 いいですか。本来中原委員から、数字の違いをきょうのことでお話ししたいということでしたので、中原委員にお聞きします。討論はいかがでしょうか。

中原委員 討論させてください。

竹内委員長 はい。それでは中原委員、討論。

賛成ですか、反対ですか。

中原委員 反対します。

一般会計の事業委員会についての10日に行われたときは賛同すると申し上げたと思えますけれども、そのときはどうしてそういう判断に至ったかといいますと、この海釣り公園納付金については予定より納付金額が減っているということでありましたが、例年どおり残りの300万円余りについては後刻町に対して歳入が行われると確認もしましたし、努力をされていると私は感じていましたので、疑念がなかったわけではないんですが、そのときは賛同しようと思いましたが、きょう改めてお聞きさせていただいて、ちょっとこの決算の認定については承服しかねるなあと感じたところです。

まず答弁の内容が違ってたと、わずかな金額といえどもそうかもわかりませんが、やはり公金をつぎ込んだ事業でありますから、目標をいかにして達成するかということについては真剣に努力をしていただきたいという思いから、数値についてご自身というか町として立てていた目標が私は達成されていないと受けとめましたので、そのことについてやはりもっと深刻に考えて、町として集客また釣果が上がるということについてどんな努力ができるのかということをもっと考えていただきたいかったと先ほどの質疑を通じて感じるところでありまして、ドームの建設をしたことである一定の効果があったと町長はおっしゃって、ある一定の効果があったことについては私も認めるところでありますが、内容については、物品販売の収入等については確かに数値を伸ばしておりますので、そういっ

た点については認めるところでありますが、この決算については認めがたいと感じている  
ところあります。

竹内委員長 それでは、中原委員の討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第61号、平成24年度岬町一般会計決算認定の件のうち、本委員会に付託された  
案件について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手をお願いいたします。

(挙手多数)

竹内委員長 挙手多数でございます。

よって、議案第61号のうち本委員会に付託された案件は、認定されました。

以上で、本委員会付託を受けました議案7件については、全て議了いたしました。

本日の審議経過並びに結果については、次の本会議において委員長報告を行いますので、  
委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

これで、臨時事業委員会を閉会いたします。

(午後1時48分 閉会)

以上の記録が本町議会第3回定例会付託委員会の会議のてんまつに相違ないことを記するため、ここに署名する。

平成25年9月17日

岬町議会

委員長 竹内 邦博